

平成27年(2015年)9月発行

いんふおめーしょん information

(「くにたちのとしょかん」通号123号)

くにたち中央図書館

〒186-0003 国立市富士見台2-34

☎042-576-0161

くにたち北市民プラザ図書館

〒186-0001 国立市北3-1-1 9号棟

☎042-580-7220

<https://www.library-kunitachi.jp>

終戦から70年

これからの平和を考える

1939年、ドイツ軍によるポーランド侵攻をきっかけとして、イギリス、フランスがドイツに宣戦布告し、ヨーロッパ地域の戦争へと発展しました。さらにその後、1941年の日本の参戦によって、世界を巻き込んだ戦争となりました。

第二次世界大戦です。

1945年8月14日、日本のポツダム宣言受諾による降伏によって、第二次世界大戦は終結に至りましたが、この6年の間に、世界各地で数多くの犠牲者をだしました。犠牲者の数については諸説あり、正確な数は把握されていませんが、「ブリタニカ国際大百科事典」によると、3500万人～6000万人とも言われています。日本においても、多くの国民が兵士として招集され、戦争末期には命と引きかえである特攻作戦も決行され、多くの若者が命を落としました。さらに日本各地の大規模な空襲、広島・長崎の原子爆弾投下、唯一の地上戦があった沖縄では住民の5人に1人が犠牲になるなど、この戦争で亡くなった日本人の数は、約300万人とも言われています。

第二次世界大戦終結から70年の月日が流れ、戦争体験者の高齢化と共に、記憶の継承が困難になりつつあります。また、この70年の間にも、世界各地では内戦や紛争が絶えず、今、この時も多くの人々が、安全を求め、難民となって他国へ逃れています。

多くの犠牲の上に築かれた70年間の平和。

この節目の年に過去を検証するもの、未来の平和について考えるものなど、多数の書籍が出版されています。

その中から、一部をご紹介します。

戦争の本の紹介

生きて帰ってきた男 ある日本兵の戦争と戦後 小熊英二／著 岩波書店(S)

あるシベリア抑留者が辿った軌跡から、戦前・戦中・戦後の日本の生活模様が蘇ります。戦争とは、平和とは、高度成長とは、いったい何だったのか。戦後70年の今、著者が父親である謙二氏の人生を通して問い直します。

イスラム戦争 内藤正典／著 集英社 (319.26)(S)

混迷を極める中東に現れたイスラム国。その過激な行動の裏にある歴史と論理とは。本書では、欧米による中東政策の限界を指摘し、日本が今後イスラム世界と衝突することなく、共存するには何が必要なのかを示しています。

沖縄戦546日歩く カベルナリア吉田／著 彩流社(291.99)

1944年7月7日「サイパン陥落」から、1946年1月3日「第一護郷隊長投降」までの546日間を、出来事が起きた順に著者の足でひたすら歩いた「旅する沖縄戦」。その実踏紀行をまとめた1冊です。

科学者は戦争で何をしたか 益川敏英／著 集英社(S)(407)

「戦争する国」へ突き進もうとする政治状況に危機感を抱く著者が、過去の戦争で科学者が果たした役割を分析します。ノーベル賞学者ならではの洞察力で、二度と同じ道を歩まないための方策を提言しています。

写真で見るペリリューの戦い 忘れてはならない日米の戦場 平塚征緒／著 山川出版社(217.5)

天皇、皇后両陛下が戦後70年の節目に戦没者を慰霊するため訪れたペリリュー島。昭和19年、約1万名の日本兵が玉砕するに至った戦闘の実相と奇跡の生還までを、写真とともに振り返っています。

勝者なき戦争 世界戦争の二〇〇年

イアン・J・ピッカートン／著 高田馨里／訳 大槻書店(209.6)

ナポレオン戦争、クリミア戦争、日露戦争、第一次・第二次大戦など、過去200年間にわたって行われた「世界戦争」を仔細に検証。その勝利の代償がいかに甚大なものであったのかを、独自のアプローチで明らかにしています。

昭和史講義 最新研究で見る戦争への道 筒井清忠／編 筑摩書房(S)

なぜ昭和の日本は戦争へ向かったのか。第一線の歴史家たちが満を持して放つ、俗説を排し信頼できる史料に依拠した研究成果。より進んだ探究をしたい人向けに邦語で読める参考文献ガイドがついています。

すべての戦争は自衛意識から始まる 「自分の国は血を流しても守れ」と叫ぶ人に訊きたい

森達也／著 ダイヤモンド社(319.8)

戦後日本の理念であった9条による「非戦の平和観」が大きく変わろうとしています。戦火が引き起こす悲劇への想像力を失ったまま「自衛」を叫ぶこの国は、どこへ向かうのか。社会を覆う不安の正体に迫る渾身の論考。

世界から戦争がなくなる本当の理由 戦後70年の教訓 池上彰／著 祥伝社(319.8)

日本は本当に平和なのか。東西冷戦は本当に終結したのか。戦争の教訓を将来に活かすためには、歴史に学ぶしかない。戦後70年間の日本と世界を振り返ることで、そのヒントを提示しています。

戦下のレシピ 太平洋戦争下の食を知る 斎藤美奈子／著 岩波書店（B）

雑炊、すいとんだけではなかった戦争中の多彩なメニュー。米がない!食料がない!そのとき人々はどうしたのでしょうか。日中戦争、太平洋戦争、敗戦までの食生活史を網羅しています。こんなものまで食べていた!究極の非常食を再現。戦争中の味がリアルに体験できるレシピ満載。写真で見る戦争中の暮らし。食べられる野草図鑑つき。「ぜいたくは敵だ」の時代の台所と食卓に迫る、読めて使えるガイドブックです。

戦争をしない国 明仁天皇メッセージ

矢部宏治／文 須田慎太郎／写真 小学館（288.41）

「沖縄問題」と真正面から向かい合い、「声なき人びとの苦しみに寄り添う」という明仁天皇。その平和への思いと重要なメッセージの数々を、美しい写真とともに紹介しています。

遠すぎた家路 戦後ヨーロッパの難民たち ベン・シェファード／著 忠平美幸／訳

河出書房新社（230.7）

ナチスなどによって生まれた膨大な難民が、戦中から戦後にかけて各地をさまよって逃げました。迫害、食糧、伝染病など多くの要因が絡んだ巨大な人口移動が、いかに戦後をつくったかを詳細に描いています。

毒ガスの島 増補新版 樋口健二／写真・文 こぶし書房（217.5）

国家は「平和のために」戦争を起こし、犠牲となった人びとをたやすく切り捨てる…。旧日本軍毒ガス製造工場・大久野島。そこで働いた労働者・学徒の戦後を追っています。

平和のための戦争論 集団的自衛権は何をもたらすのか？

植木千可子／著 筑摩書房（319.8）（S）

「戦争をするか、否か」を決めるのは、私たちの責任になる。集団的自衛権の容認によって、日本と世界はどう変わるのか。「戦争を防ぐ」という信念のもとに、「なぜ戦争が起きるのか」を徹底して現実的に分析しています。

八月十五日の真実 大日本帝国が崩壊した運命の日 平塚征緒／著 ビジネス社（217.5）

原爆投下、ソ連参戦は避けられなかったのか。なぜポツダム宣言受諾は遅れたのか。昭和天皇の真意は…。和平か本土決戦か。日本が揺れた1年の謎を追います。

私の「戦後70年談話」 岩波書店編集部／編 岩波書店（916）

戦後70年の日本の歩みをどのように総括し、これからの日本社会をどのように展望するか。戦前・戦中・戦後を生き抜き、各界で活躍を続ける41人の著名人が、次の世代に贈るメッセージを記しています。

大人のためのお話会

参加費無料 **申込不要**（北市民プラザ図書館以外）

かつてテレビもラジオもなかった時代、洋の東西を問わず、人の口を介して語られる「物語」は楽しみでもあり、また「^ち知恵」を得るための場でもあったことでしょう。

図書館では毎週、子どものための「お話会」を実施していますが、「お話」は子どもだけのものではなく、さまざまな経験をした大人だからこそ、感じ取れるものがあるのではないのでしょうか。

今年度も9月から、大人向けのお話会を開催します。（全5回）

第1回

日時 9月20日（日）午後2時30分～（開場：午後2時～）

場所 中央図書館2階 おはなしのへや

対象 大人の方

出演 くにたちお話の会

内容 「ブレーメンの音楽隊」「三枚の札コ」ほか



平成27年度「大人のためのお話会」日程

	日 程	場 所
1 回	平成27年 9月20日（日）	中央図書館
2 回	10月22日（木）	南市民プラザ分室
3 回	11月27日（金）	下谷保分室
4 回	平成28年 1月20日（水）	谷保東分室
5 回	2月22日（月）	北市民プラザ図書館

※いずれも開演は午後2時30分（開場は午後2時）

くにたち図書館ホームページのスマートフォン対応について

くにたち図書館では、スマートフォン向けの専用のサイトを新たに開設しました。ぜひ、ご利用ください。



「くにたちしらべ」No. 20ができました！

国立市について、いろいろなテーマでまとめたレファレンスシート「くにたちしらべ」の20号ができました。今回のテーマは「国立市のシンボル」です。国立市の木・花・色・鳥は何でしょうか？ それぞれのシンボルはいつごろ、どのように決まったのでしょうか？

ご興味のある方は「くにたちしらべ」をご覧ください。

※「くにたちしらべ」各号は中央図書館や図書館ホームページでご覧いただけます。